

## 魔法の Wallet プロジェクト活動報告書

報告者氏名：石田 実香 所属：群馬県立伊勢崎高等特別支援学校 記録日：2020年2月9日  
キーワード：生活支援、見通し、自信、達成感、写真、動画、日記

### 【対象生徒の情報】

#### ○学年

Aさん：高等特別支援学校3年生 女子

#### ○障害名

知的障害 ダウン症（療育手帳判定 B1）

#### ○障害と困難の内容

- ・読み書き、計算、作文、時計、お金などの学習は、小学校低学年程度の内容に取り組んでいる。
- ・何かに固執してしまうと自分が納得いくまでこだわり、時には長時間固まる。
- ・好きな活動等に夢中になると、なかなか止められず時間が守れない。

#### ○その他

本校では各自 iPad を入学時に購入（就学奨励費を運用）し、日々の学習に活用している。

Aさんは、iPad の学習アプリ（漢字・計算など）を使った学習に日々取り組んでいるほか、余暇時にはカメラアプリを使って教師や友達を撮影したり、YouTube を視聴したりすることを好む。

### 【活動目的】

#### ○当初のねらい

- ・学習スケジュールを把握し、見通しをもって学習活動に取り組むことができる
- ・時間で活動の切り替えができる

#### ○実施期間

2019年5月7日から2019年12月20日

#### ○実施者

石田実香

#### ○実施者と対象生徒の関係

担任

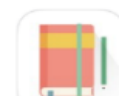
### 【活動内容と対象生徒の変化】

#### ○対象生徒の事前の状況

- ・マイペースで時間やスケジュールを守ろうとする意識が薄く、何かに固執してしまうと時間に関係なく、自分が納得いくまでこだわる傾向にあり、時には長時間固まってしまう。
- ・好きな活動や学習に集中し過ぎると、終わりにできない。
- ・YouTube の視聴が大好きで、夢中になると止められないこともしばしばある。
- ・卒業後は就労継続支援 B 型の作業所へ就労を検討するにあたり、就労アセスメントを昨年度実施した。アセスメントの結果、作業の理解や取り組みにおいては、就労継続支援 B 型が適しているが、マイペースで時間やきまりを守れない点を指摘された。

○活動の具体的内容

・「学習スケジュールを把握し、見直しをもって学習活動に取り組むことができる」ために5/7よりアプリ「My 日記」を導入し、週予定表や1日の流れを示したスケジュールボードを画像で取り込み、スケジュールを常に確認できることをねらった。しかし、アプリに画像をきれいに取り込むことに固執し始めたり、日々のスケジュールボードの記入を担当する中でスケジュール把握ができていたりすることから、アプリ「My 日記」の活用は不要と判断した。また、苦手な学習や新しい学習になると、スケジュールを理解していても、結局取り掛かりに時間がかかり、6月から7月にかけての固まる回数は変化が見られなかった。そこで、ねらいを変更することにした。



My 日記

・「学習内容の概要を把握し、意欲をもって学習活動に取り組むことができる」(変更後のねらい)のためにねらいの変更を受けて、「写真」「動画」アプリを活用することにした。

**写真アプリ**：1年生の頃からの学習活動の画像が蓄積されているので、学習内容の概要を把握するために有効と考えた。



写真



カメラ

**カメラアプリ**：頑張る姿を記録し、いろいろな人に見せることができることから、活動への意欲をもって取り組むために有効と考えた。

見直しを持たせ、活動への意欲を持たせるための写真・動画の活用場面

1. 事前に様子を  
知る



・Aさんが固まると予想される内容(苦手な学習、新しい学習など)の画像(過去の本人の同様の取り組みや既存の画像や、既存のものがなければインターネットからの画像や動画)を準備し、事前に確認させる。

2. 取り組み始めた様子や成功体験を記録し、お気に入りの先生や保護者に見てもらう

・Aさんが新しい学習や苦手な学習に取り組み始めたり、活動をやり遂げた場面等を撮影し、Aさんのお気に入りの先生や保護者にその画像を見せる。画像を見て称賛してもらうことで、Aさんの意欲を継続させられるようにする。



・「写真」「動画」アプリが有効だった場面

11月下旬、Aさんの苦手なマラソン大会を控え、1・2年生の時の様子からスタートで固まることを予想した。そこで、事前に成功体験(昨年度のマラソン大会は、スタートで固まったが、何とか完走することができた。)の画像をAさんに見せながら励ました。



マラソンコースの試走当日、頑張っている姿を撮影していることをAさんに伝え、スタートへ送り出すと、固まることなくスタートができ、成功した様子を撮影することができた。無事にスタートできた姿や、完走して着順札を見せる姿を、お気に入りの先生や保護者に見せて称賛してもらったことでマラソン大会本番への意欲につながり、Aさんはマラソン大会本番もスムーズにスタートができた。

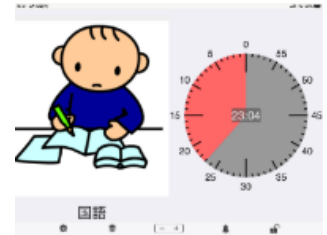


### ・「時間で活動の切り替えができる」ために

Aさんはアナログ時計を正しく読むことができ、毎朝の通学の電車に乗り遅れたことは1度もないことから、始まりや終わりの時間ははっきり分からないために時間を守れないのではないかと考えた。



### 絵カードタイマー

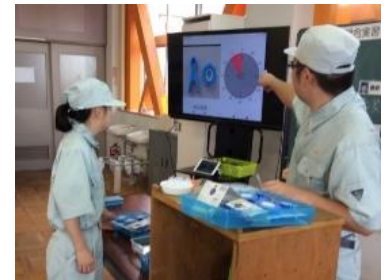


5/14より、始まりや終わりの時間が目で見て分かるためのツールとして、活動の終わりが視覚で分かるタイマーアプリ「絵カードタイマー」を使い始める。学習時間や休み時間の終わりが見て分かるように、教師が意図的にタイマーをセットし、Aさんの近くに置いて活用していくことにした。

### ・「絵カードタイマー」アプリが有効だった場面

6月中旬のもうすぐ休み時間が終わる場面で、休み時間の終わりが切り替えられるように、教師が意図的に「絵カードタイマー」を設定しておいた。すると、Aさんは授業がもうすぐ始まることを理解し、まだ着席をしていないクラスメイトのC君に、タイマーを指差して「C君、時間だよ！」と時間を知らせる姿が見られた。

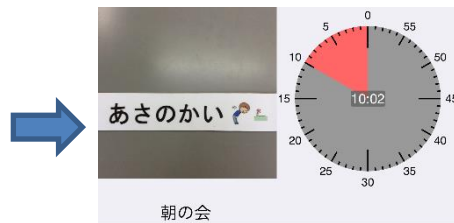
また作業学習において、Aさんだけでなく授業に参加する生徒全体が見通しをもって作業に取り組めることをねらい、「絵カードタイマー」を大きいモニターに映して活用し始めた。そして7月上旬、Eさんと協力しながら作業を進める場面で、Eくんが作業時間が残り少ないことを伝えるとモニターを見て片付けを始めるAさんの姿が見られ、友達とのやりとりから時間を意識できている様子が伺えた。



11月21日の朝、Aさんのお気に入りの先生が不在（予測が困難なこと）で、朝の係活動に取り組む意欲が出ず、廊下で固まってしまった。「絵カードタイマー」を見せながら、あと10分で朝の会が始まることを伝えると、5分後には朝の係活動に取り組むことができ、朝の会にも間に合うことができた。



お気に入りの先生が不在で、朝の係活動のやる気が出ず、固まってしまう



タイマーを見せながら、あと10分で朝の会が始まることを伝えると…



5分後には、朝の係活動に取り組むことができた！朝の会にも間に合った！

### ・時間で活動の切り替えができるためのツールとして(卒業後を見据えて)

9月下旬頃から、タイマーアプリに加え、「時計」アプリのアラーム機能を活用することにした。授業や休み時間の開始や終了に合わせて、「時計」アプリのアラームを設定したところ、校時表の時刻を意識できるようになってきた。



### 時計

就労後は、作業所のスケジュールに合わせてアラームを設定し、時間を意識して仕事をするために活用できると良い。



また、余暇時間に YouTube を見るのが大好きで、夢中になると止められなくなる傾向にあるため、9月下旬頃から、ペアレンタルコントロールを導入した。「スクリーンタイム」機能を活用し、停止する時刻をあらかじめ設定したことで、無理なく止められるようになってきた。



## スクリーンタイム

卒業後は、保護者に「スクリーンタイム」機能の使い方を伝達し、iPadの使用に夢中になって止められないときに、活用できると良い。また、Aさんの成長に合わせて、使い方の工夫をしてほしいことも伝達したいと考える。

### ○対象生徒の事後の変化

#### ・固まることについて

マラソン大会の事例のほかに、粘土を扱う美術の学習（苦手な学習）や他校生徒との交流学习（新しい学習）等において、写真アプリやカメラアプリを活用したことによる成果が出ており、固まる回数も緩やかではあるが減少してきた。

#### ・時間が守れないことについて

タイマーアプリを活用するようになってから、明らかに時間を意識できるようになり、徐々にAさん本人の時間が気になる場面で、自分からタイマーアプリをセットして使う姿も見られるようになった。

また、「時計」アプリのアラーム機能や、「スクリーンタイム」機能も並行して活用することで、より時間で活動の切り替えができるようになってきた。

#### ・就業体験の様子から(9月上旬:就労継続支援B型の作業所にて実施)

お気に入りのスタッフや部品の色にこだわる場面があったが、作業が滞ることはなかったとのこと。作業の理解力や集中力があり、時間を守って開始や終了ができていたとの報告を受けた。

以下に、就業体験の評価表を昨年度の9月と今年度の9月で比べてみると、明らかに今年度は評価が高くなっていることが分かった。

昨年度(9月)の評価表

就業体験(現場実習)評価表		
福祉サービス事業所用(B型・施設)		群馬県立伊勢崎高等特別支援学校
期間	実習先名称	
生徒名	記入者名	
◎各項目について、評価欄に、A、B、Cのいずれかをご記入ください。 A・・・よくできた B・・・ふつう C・・・努力がいる		
項目	評価	
1 挨拶や返事は、元気よくはっきりできたか。	C	
2 着替えや、持ち物の管理はほとんどひとりで行えたか。	A	
3 作業は、根気よく集中して取り組めたか。	B	
4 作業は、支援を受けなくても自分でできたか。	B	
5 職員の方の指示に素直に従うことができたか。	C	
6 わからない事や困った時に職員の方に助けを求められたか。	C	
7 作業や生活の流れが分かり落ち着いて活動できたか。	C	
8 まわりの人に迷惑をかけず、親しくできたか。	B	
9 片付けや清掃にしっかり取り組めたか。	C	
10 けがや事故に注意して、安全に作業ができたか。	B	

今年度(9月)の評価表

就業体験(現場実習)評価表		
福祉サービス事業所用(B型)		群馬県立伊勢崎高等特別支援学校
期間	実習先名称	
生徒名	記入者名	
◎各項目について、評価欄に、A、B、Cのいずれかをご記入ください。 A・・・よくできた B・・・ふつう C・・・努力がいる		
項目	評価	
1 挨拶や返事は、元気よくはっきりできたか。	B	
2 着替えや、持ち物の管理はほとんどひとりで行えたか。	B	
3 作業は、根気よく集中して取り組めたか。	A	
4 作業は、支援を受けなくても自分でできたか。	B	
5 職員の方の指示に素直に従うことができたか。	B	
6 わからない事や困った時に職員の方に助けを求められたか。	A	
7 作業や生活の流れが分かり落ち着いて活動できたか。	B	
8 まわりの人に迷惑をかけず、親しくできたか。	A	
9 片付けや清掃にしっかり取り組めたか。	B	
10 けがや事故に注意して、安全に作業ができたか。	A	

今年度はA評価が増え、C評価がなくなっている！



## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

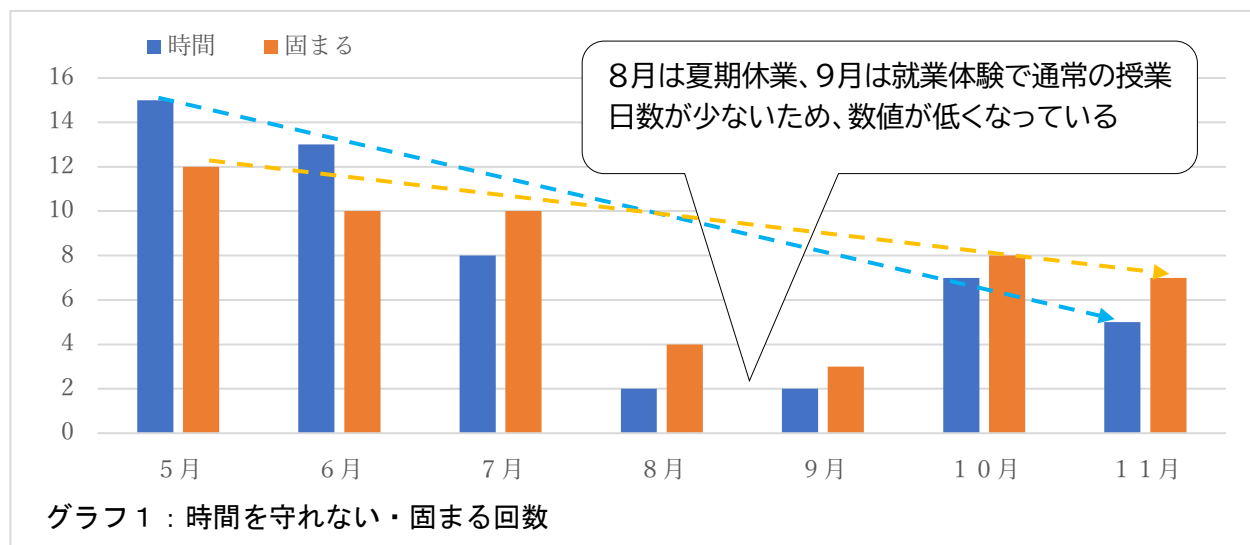
実践を始めた5月から比べると、時間を守れなかったり固まったりする回数は、どちらも減少傾向にある。しかし、時間を守れない回数は明らかに減少しているものの、固まる回数は6・7月は数値が変わらなかったり減少の様子が緩やかだったりしている。この差について考察してみると、予測可能なこと（苦手な学習・新しい学習）は、教師が事前に手立てを講じることができるため、スムーズに取り組めるようになってきている。それに対し、予測が困難なこと（急な予定変更・自然現象）については現在でも固まることがあり、それが固まる回数の減少を緩やかにしていると考えられる。

ただし、実践が進むにつれ、時間を意識できるようになってきたことで、固まっても短時間で活動の流れに乗れるようになるなど、Aさんの様子に変容が見られるようになった。また、Aさんの変容がより顕著だったのは、今年度の就業体験の評価が明らかに高くなっていったことである。これは、時間による切り替えができるようになったことが、少なからず関連していると考えられる。

### ○エビデンス

5月から11月までの時間を守れなかったり、こだわりから固まって動かなくなってしまう回数を調査した結果、次のグラフ1のようになった。

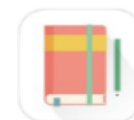
どちらも減少傾向にあるが、特に時間を守れない回数は明らかに減少してきたことが分かる。



### ○その他エピソード

#### ・固まったり気持ちが落ち込んだりした際、意欲付けのツールとして

iPadは卒業すると本人が所有することになるので、卒業後もiPadを日々の生活に活かしてほしいと考える。Aさんは、iPadで写真を撮影したり、一言日記を書いたりすることを好む。そこで、画像と簡単な言葉で日々の取り組みを記録するスキルを身に付けられたら良いと考え、スケジュール管理で使用を断念した「My日記」を活用することにした。本人や教師が撮影した画像から好きな画像を選び、「My日記」に記録をすることが10月下旬から日課になってきている。卒業後は、楽しかったことや成功体験を記録し、固まったり気持ちが落ち込んだりした際に振り返り、自己コントロールの一助として活用できると良い。



My日記